

学院生活・ハラスメントに関する学生アンケート結果（5月）

- 実施時期 令和4年5月23日～29日
- 対象 全学生
- 回答方法 申請フォームにより各自スマートフォンで回答（無記名）

1 回答率（目標：100%）

月	5月
回答数	29人（78%）

2 学院生活の満足度（目標：楽しい・まあまあ楽しいが増加）

月	5月
【1】学院生活が充実している（楽しい・まあまあ楽しい）	19人（65%）

3 自己肯定感（目標：ポジティブな回答が増加）

月	5月
【2】自分自身に満足しているか （そう思う、どちらかと言えばそう思う）	14（48%）
【3】自分が役に立たないと感じるか （どちらかと言えばそう思わない、そう思わない）	13（45%）
【4】今の自分が好きか（そう思う、どちらかと言えばそう思う）	12（41%）

4 ハラスメント（目標：すべて「ない」）

月	5月
【5】言葉の暴力と言えるようなひどい非難叱責を受けた	ない
【6】事実無根のうわさを流された	ない
【7】私生活に干渉するようなことを言われたりされた	たまにある1
【8】教育・研究とは関係ないと思われる私的な用件を命じられた	ない
【9】非常識な時間に実験や研究を命じられたり呼び出されたりした	ない
【10】学業・研究・業務等を妨害するような言動を受けた	ない
【11】学業・研究・業務等に関して自分だけ不当な扱いを受けた	ない
【12】容姿・年齢・交友関係等に関して、執拗に聞かれたり、話題にされたりした	ない

- ◆どのような対応をしたか 相談しなかった
- ◆相談しなかった理由 比較的軽微な被害だったので我慢した
一過性だと思えたから

※学内で結果を共有しハラスメント研修実施済

5 ハラスメント相談員の周知（目標：「知っている」が100%）

月	5月
【17】 ハラスメント相談員を知っている	21人（72%）

※アンケートフォーム入力後にハラスメント相談員が周知されるよう設定

6 自由記載

区分	意見	回答等
(1) ハラスメント	<ul style="list-style-type: none"> ・特にハラスメント等は改善されたと感じます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、ハラスメントの再発防止と早期発見につとめます。
(2) 指導	<ul style="list-style-type: none"> ・去年の夏頃まではダメなところをとてめ責められ、自分はどこがいいのかわからなくなっていました。が、実習を通して、勿論ダメな所も指摘しますが、解決策を探してくれたり、いい所を褒めてくれるので自分を見失わずにすんでいます。 ・看護過程の指導内容や、実習の記録物の提出の仕方など教員の中で合わせてください。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教員間で実習目的や指導方針を共有しながら、指導にあたっています。看護領域の特徴や各教員の看護観などにより、助言内容に違いがあることがありますが、目指すところは同じです。 ・山に登る道は一つではありません。全教員、皆さんを山頂に導けるよう指導していますので、担当教員を信じてついてきてください。 ・ただし、記録の提出方法等、実習要綱等で定めている内容について、教員間で指導が異なる場合は教員が勘違いしている可能性もあります。その場合は「〇〇先生はこう言ってました」「〇〇先生の時と違います」などと指摘し確認を求めてください。
	<ul style="list-style-type: none"> ・教員1人に負担が集中しているのか、その教員にやるべき事が多く指導待ちの人がたまり、細かい指導が受けられない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・どの実習でも1人1人に適切な指導ができるよう対応しています。しかしながら、複数の実習を担当する教員もおり、皆さんのタイミングに合わせて対応することが難しい場合があります、お待たせして申し訳ありません。優先順位も見極めながら、指導時間を確保できるよう工夫していきます。
(3) 実習	<ul style="list-style-type: none"> ・できるなら、移動や下宿などにかかる費用の補助があれば、実習に集中できると思います。 ・実習の宿泊先を生徒が決めるのではなく、学院側が決めて欲しいで 	<ul style="list-style-type: none"> ・実習にかかる費用は、自宅の所在地や実習地等によって異なりますので、一律で集金することは困難です。また、道立の学院として各学生の授業料負担を最小限

区分	意見	回答等
	<p>す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習の際の宿泊先を学院の方で決めてほしいです。 ・下宿先に荷物運ぶのが遠方組は困難なのでどこに頼めばいいかなどの選択肢を与えてほしいです。(出来れば) ・実習先が函館の場合、宿泊できる場所がなかったりするので、学校側で候補を出してほしい。 ・実習先の下宿や移動手段は学校側で確保してほしい。(遠方からきている人が多いため親が来るのも困難だし、荷物も多いため) 	<p>におさえているため、実習費の補助はできませんのでご了承ください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・宿泊先の候補等については、これまでの実績を整理して、次年度以降の学生の手配負担が軽くなるよう、準備したいと思います。貴重なご意見ありがとうございました。
(4) 学習・学院生活	<ul style="list-style-type: none"> ・土日も学院を利用出来るようにして欲しい。図書室が利用出来たり、課外活動を土日でも行えるようにする事でより充実した生活に繋がると思いました。 ・空き講義がある時、補習のようなものがあると嬉しい。分からなかったら聞きに来てとは言われるけど、自由に参加できる補習があると参加しやすいかなと思います。解剖生理学とか、看護方法の技術は授業だけでは習得出来ないことも多いので、してほしいです。 	<ul style="list-style-type: none"> ・週休日等の学院利用は、現在の警備システムでは職員が出勤することが必要なため、困難です。 ・利用する日時が予めわかっている場合は、その利用目的によって利用を許可するか検討します。ご相談ください。 ・なお、職員が出勤する週休日で学院施設を利用できる場合は、その都度周知しますので、活用してください。 ・学院の使命は、国家試験受験資格を得るための講義や実習を運行することであり、まずは、皆さんの主体的な学びを支援していきます。(主体的な学びの例→予習・復習しわからないところは教員に質問する、空き時間を有効に活用し教室や図書室・実習室等で自己学習するなど) ・国家試験対策等、特定の試験対策については、皆さんの強い希望があれば、専任教員で対応できる範囲で対応を検討します。
(5) 役割	<ul style="list-style-type: none"> ・昼ご飯の時間が決まっているにも関わらず、日直業務で時間がおすとお昼ご飯を食べる時間が減る 	<ul style="list-style-type: none"> ・講師によっては2講目の後片付けと3講目の準備が重なるなど、昼休みに食い込むことがあ

区分	意見	回答等
	<p>ので、できればやめて欲しいです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・連絡事項があるときはできるだけ前日に教えてもらいたい。(当日急に言われると予定してた係の仕事ができなくなったり、寮の集まりやご飯の時間に遅れるため) 	<p>ります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・できるだけ、前日や朝の時間帯に準備できるよう対応していますが、使うものを予測してすぐ使えるよう準備しておく、クラスメンバーで協力しあうなど、皆さんの間でもできる工夫をお願いします。
	<ul style="list-style-type: none"> ・学院に所属する人数が少ないため、学院での個人役割や大掃除が負担に感じる 	<ul style="list-style-type: none"> ・学生数の減少による役割負担の増加は認識しています。これまでも、トイレのペーパータオル設置、掃除頻度の見直しなど実施してきましたが、引き続き、美化委員とともに検討していきます。